

サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く

2013 年冬のボーナスと 家計の実態調査

～“わが家の生活防衛策”第 27 弾～

2013 年 12 月

<Part 1 >



損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社

目 次

■調査概要	1
-------	---

■調査結果	4
-------	---

I この冬のボーナス

1. この冬のボーナスの手取り額	5
2. この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較	7
3. ボーナスの今後の見通し	8
4. 今回のボーナスの主な使い道	10
5. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額	14
6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額	17

調査概要

1. 調査の目的

損保ジャパン・ディー・アイ・ワイ生命保険株式会社では、家計を切り盛りしている主婦がわが家の家計をどのように感じ、将来に向けてどのような展望を持っているのかを探るため、2002年3月からサラリーマンの夫を持つ主婦を対象に“わが家の生活防衛策シリーズ”と題して家計の実態調査を実施してまいりました。

27回目となる今回は、2013年冬に受給した夫のボーナスに対する主婦の反応や家計に関する意識と実態、今後の家計の見通しや生活防衛策などを明らかにすることを目的に「サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞く、ボーナスと家計の実態調査」を実施しました。

なお、この Part 1 は速報性を重んじ、冬のボーナスに関わる項目に絞って報告書を作成しました。来年1月に家計の実態調査などの項目に関する結果を Part 2 としてご報告します。

2. 調査の実施要領

(1) 調査対象及びサンプル数

一般企業に勤めるサラリーマン世帯の 20 歳から 59 歳の主婦 500 人

<サンプル配分>

合計	20～ 29 歳	30～ 39 歳	40～ 49 歳	50～ 59 歳
500	125	125	125	125

(2) 調査方法 インターネット調査

(3) 調査時期 平成 25 年 12 月 7 日（土）～12 月 10 日（火）

(4) 調査項目

- ・この冬のボーナスの手取り額、昨年と比較した増減額
- ・今後の増減見通し
- ・ボーナスの主な使い道
- ・ボーナスの中から夫に渡した小遣いの額
- ・臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額

3. 回答者及び回答者世帯の基本属性

上段：件数、下段：割合（単位＝％）

F1. 年齢

（平均：39.7 歳）

サンプル数	20～ 24 歳	25～ 29 歳	30～ 34 歳	35～ 39 歳	40～ 44 歳	45～ 49 歳	50～ 54 歳	55～ 59 歳
500	9	116	62	63	71	54	88	37
100.0	1.8	23.2	12.4	12.6	14.2	10.8	17.6	7.4

F2. 職業

サンプル数	正 規 有 職	パート	専 業 主 婦
500	84	122	294
100.0	16.8	24.4	58.8

F3. 夫の年代

サンプル数	20 代	30 代	40 代	50 歳 以上
500	80	147	133	140
100.0	16.0	29.4	26.6	28.0

F4. 夫の勤務先での役職

サンプル数	役職 なし	係長・ 主任 クラス	課長 クラス	部長 クラス 以上
500	229	121	100	50
100.0	45.8	24.2	20.0	10.0

F5. 夫の勤務先の業種

サンプル数	水産・ 農林・ 鉱業	建設業	製造業	電気・ ガス業	運輸・ 情報 通信業	商業	金融・不 動産・サ ービス 業
500	2	42	233	23	49	48	103
100.0	0.4	8.4	46.6	4.6	9.8	9.6	20.6

F6. 世帯構成

サンプル数	夫婦 のみ	夫婦 と子	3世代 同居(4 世代同 居を含 む)	親夫婦 と子夫 婦・あ なた方 夫婦と 親	その他
500	155	292	34	15	4
100.0	31.0	58.4	6.8	3.0	0.8

F7. 扶養中の子どもはいるか

サンプル数	いる	いない
500	275	225
100.0	55.0	45.0

F8. 住まいの形態

サンプル数	一戸建て持ち家	一戸建て借家	分譲集合住宅	賃貸集合住宅	社宅・寮
500	230	7	109	129	25
100.0	46.0	1.4	21.8	25.8	5.0

F9. 現在住宅ローンがあるか

サンプル数	ある	ない
500	234	266
100.0	46.8	53.2

F10. 世帯年収(税込み)

サンプル数	400万円未満	400～600万円未満	600～800万円未満	800～1000万円未満	1000万円以上
500	46	164	116	83	91
100.0	9.2	32.8	23.2	16.6	18.2

F11. 居住地

サンプル数	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
500	9	14	238	84	102	21	5	27
100.0	1.8	2.8	47.6	16.8	20.4	4.2	1.0	5.4

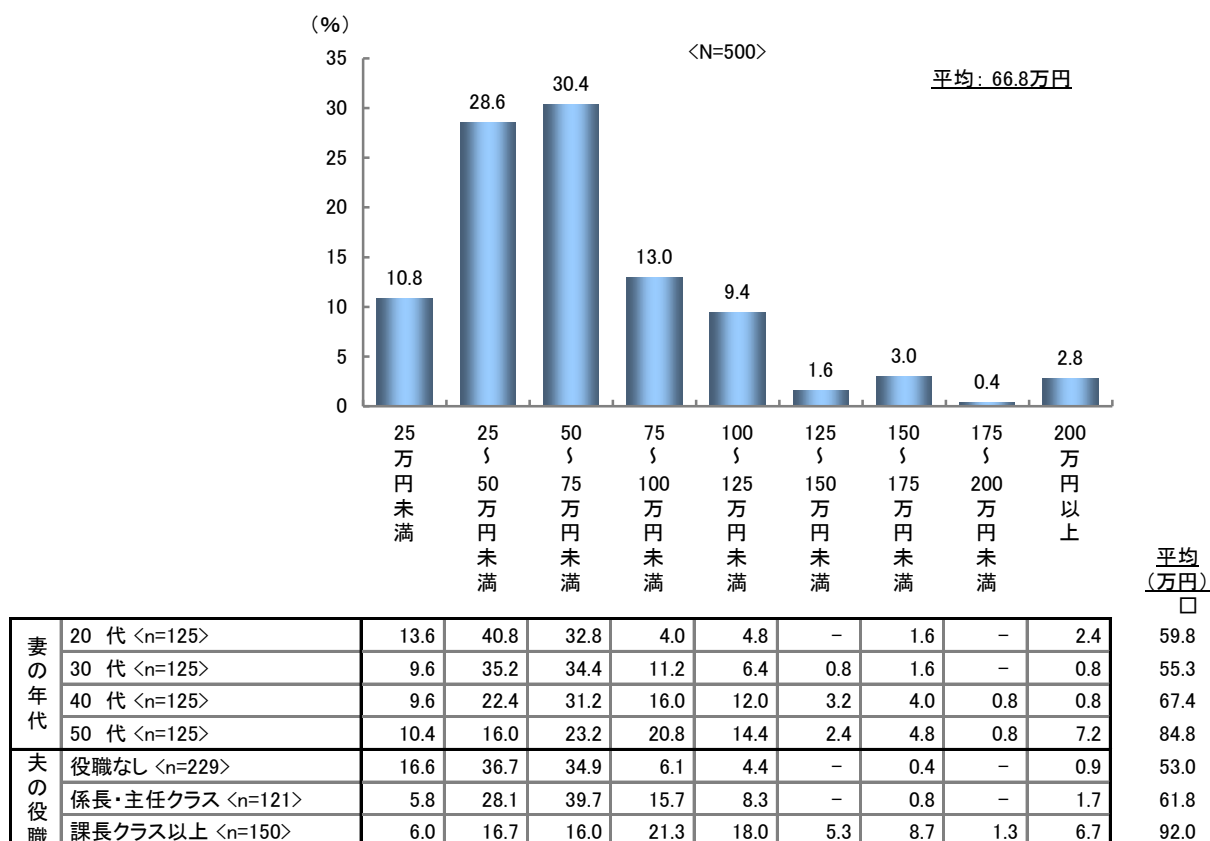
調査結果

I この冬のボーナス

1. この冬のボーナスの手取り額

この冬のボーナス平均受給額(手取り)は、平均「66.8 万円」。

図 1. この冬のボーナスの手取り額



※『この冬のボーナス』とは 2013 年冬に夫が受給したボーナスを指し、妻や子どもなど他の家族が受給したボーナスは含みません。

この冬のボーナスの手取り額は、手取り額でいくらだったのでしょうか。サラリーマン世帯の主婦 500 名に聞きました。

「50～75 万円未満」(30.4%)、「25～50 万円未満」(28.6%) が 3 割前後で多く、「25～75 万円未満」との回答が 6 割近く (59.0%) を占めています。以下、「75～100 万円未満」(13.0%)、「25 万円未満」(10.8%)、「100～125 万円未満」(9.4%) と続き、平均は「66.8 万円」となっています。

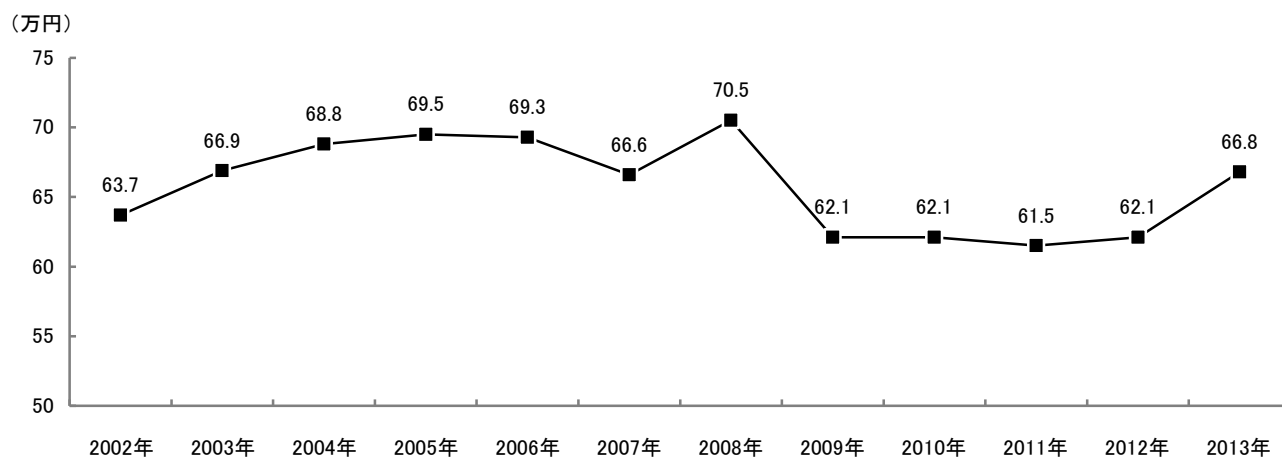
・妻の年代別に受給額の平均をみると、総じて高い年代ほど金額は高い傾向があり、「50 代」では 84.8 万円と全体平均を 18 万円上回っています。ただ「20 代」(59.8 万円) と「30 代」(55.3 万円) では、「20 代」が「30 代」を 4.5 万円上回っています。

- ・夫の役職別に平均をみると、役職が上がるとともに受給額は高くなり、《役職なし》（53.0 万円）と《課長クラス以上》（92.0 万円）では 39.0 万円の差がみられます。

■昨冬の調査結果との比較■

平均額は昨冬「62.1 万円」→今冬「66.8 万円」と、4.7 万円増加し、過去 5 年間の最高額となりました。

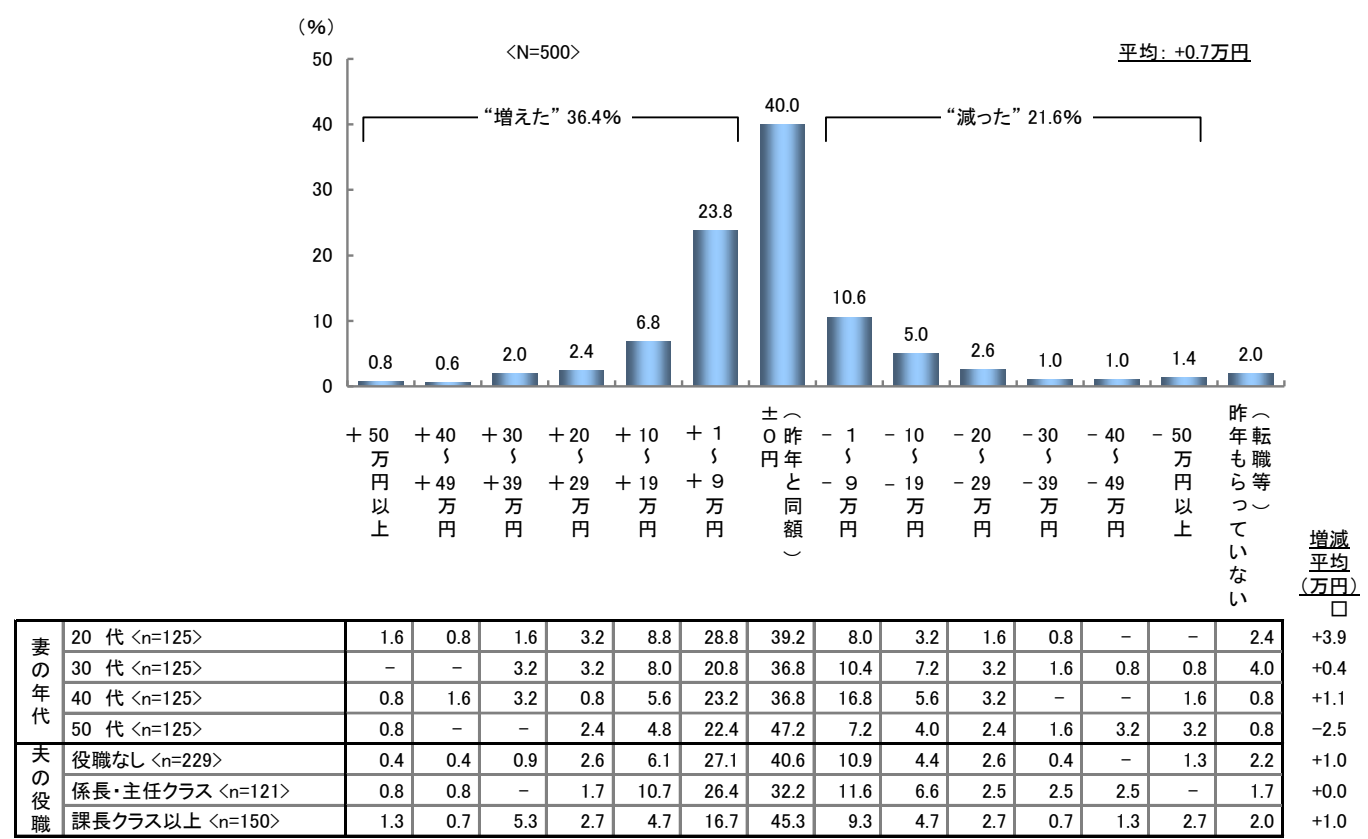
図 2. 冬のボーナスの手取り額（平均額の経年推移）



2. この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較

“増えた”(36.4%)が“減った”(21.6%)を上回り、増減の平均も「+0.7万円」とわずかに増加。

図 3. この冬のボーナスと昨年冬のボーナスとの増減比較



この冬のボーナスは、昨年冬のボーナスと比べて増えたでしょうか、減ったでしょうか。

「+1～9万円」(23.8%)など“増えた”(36.4%)という人が3分の1以上を占めており、「-1～9万円」(10.6%)など“減った”(21.6%)という人を15ポイント近く上回っています。増減の平均も「+0.7万円」とわずかながら増加傾向となっています。

- ・妻の年代別にみると、《20代》で“増えた”との回答(44.8%)が多く、《30代》《40代》(いずれも35.2%)よりも約10ポイント、《50代》(30.4%)よりも約15ポイント上回っており、増減平均額も《20代》の「+3.9万円」と他の年代に比べ増加の大きさが目立っています。
- ・夫の役職別にみると、“増えた”との回答は《係長・主任クラス》(40.5%)で約4割と高めになっています。ただ《役職なし》《課長クラス以上》を含めた全てで“増えた”の回答率は“減った”を上回っています。

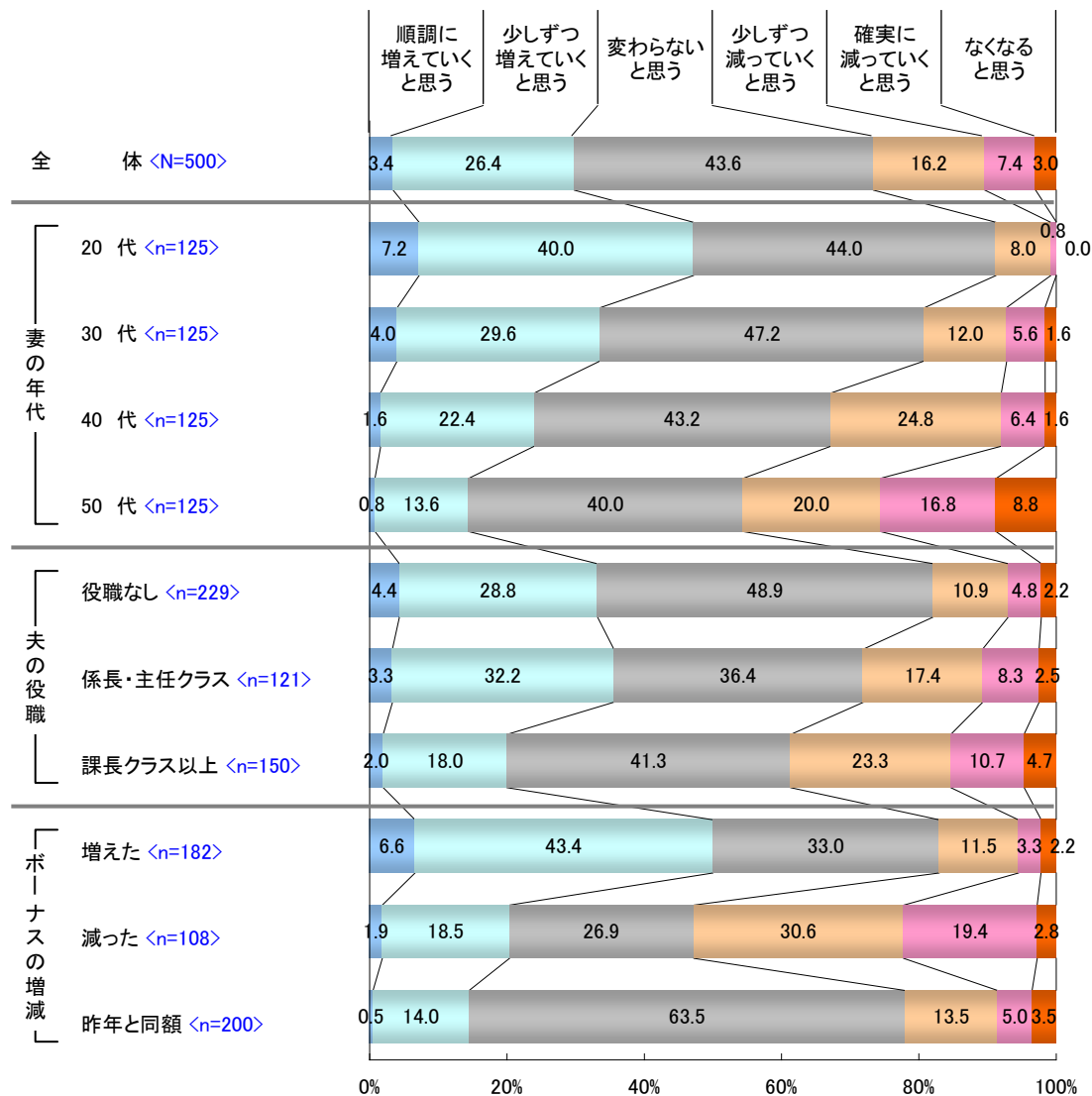
■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、“増えた”(28.8%→36.4%)との回答が増加し、“減った”(32.6%→21.6%)の回答が減少した結果、受給額の増減の平均も「-1.6万円」→「+0.7万円」と増加に転じています。

3. ボーナスの今後の見通し

「変わらないと思う」(43.6%)が4割超を占めるが、“増えていく”(29.8%)という楽観的な見通しが、“減っていく＋なくなる”(26.6%)という悲観的な見通しをやや上回る。

図 4. ボーナスの今後の見通し



今後の夫のボーナスの見通しについて聞いたところ、「変わらないと思う」(43.6%)との回答が4割強を占めて多くなっていますが、「順調に増えていくと思う」(3.4%)、「少しずつ増えていくと思う」(26.4%)を合わせた“増えていく”(29.8%)という楽観的な見通しは約3割であり、「少しずつ減っていくと思う」(16.2%)、「確実に減っていくと思う」(7.4%)、「なくなると思う」(3.0%)を合わせた“減っていく＋なくなる”(26.6%)という悲観的な見通しをわずかに上回っています。

- ・妻の年代別にみると、若い年代ほど楽観的な見方をする人が多く、一方、高い年代では悲観的な見方が多くなっています。“増えていく（順調に＋少しずつ）”と思っている割合は《20代》では5割近く（47.2%）ですが、《50代》では1割台（14.4%）に過ぎません。一方“減っていく（確実に＋少しずつ）＋なくなる”と思っている割合は《50代》で4割台（45.6%）と高くなっていますが、《20代》では1割未満（8.8%）です。

- ・夫の役職別にみると、役職が高いほど “減っていく＋なくなる” という悲観的な見方が多く、《役職なし》（17.9%）の人では1割台なのに対し、《課長クラス以上》では4割近く（38.7%）に達しています。
- ・ボーナスの増減との関連をみると、当然かも知れませんが、ボーナスが《増えた》人で “増えていく”（50.0%）と考えている割合が半数に達しているのが目立ちます。今年ボーナスが増えたことで、来年以降への期待も高まっているようです。

■昨冬の調査結果との比較■

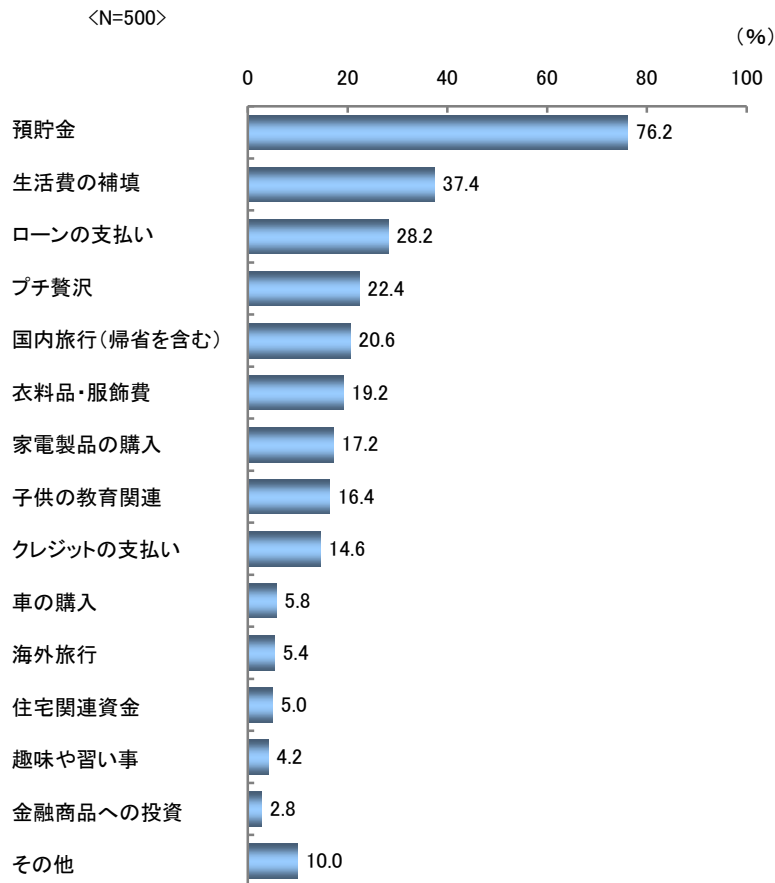
昨冬の調査結果と比べると、昨冬では “増えていくと思う”（23.6%）よりも “減っていく＋なくなると思う”（33.8%）の方が約 10 ポイントも高い割合でしたが、調査開始以降初めて、今冬は “増えていくと思う”（29.8%）の方が “減っていく＋なくなると思う”（26.6%）を上回っており、昨冬に比べると今後の景気回復に期待が持てると考えている人が多くなっているようです。

4. 今回のボーナスの主な使い道

「預貯金」(76.2%)が目立って高く、“将来への備え”への思いは強い。次いで、「生活費の補填」(37.4%)、「ローンの支払い」(28.2%)など“家計のやりくり”に使う人も多く、そのほか「プチ贅沢」(22.4%)、「国内旅行(帰省を含む)」(20.6%)も2割を超す回答率。

●ボーナス総額に占める各用途別金額の内訳も、「預貯金」(43.9%)が4割超と圧倒的。

図 5. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答）



今回のボーナスの主な使い道については、「預貯金」(76.2%)を4分の3以上の人があげ、他の項目に比べ目立って高い割合となっており、“将来への備え”としての利用を予定している人が多いようです。次いで「生活費の補填」(37.4%)、「ローンの支払い」(28.2%)といった“家計のやりくり”の用途が続いています。

以下「プチ贅沢」(22.4%)、「国内旅行(帰省を含む)」(20.6%)も2割を超す回答率となっています。

表 1. 今回のボーナスの主な使い道（複数回答：属性別）

(%)

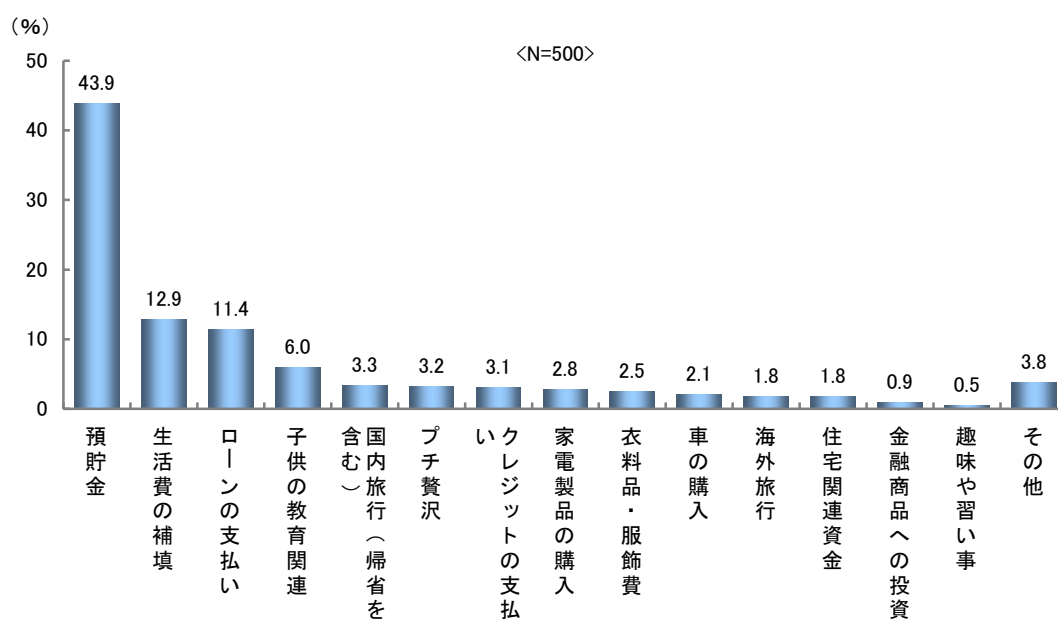
		サ ン プ ル 数	預 貯 金	生 活 費 の 補 填	ロ ー ン の 支 払 い	プ チ 贅 沢	国 内 旅 行 （ 帰 省 を 含 む ）	衣 料 品 ・ 服 飾 費	家 電 製 品 の 購 入	子 供 の 教 育 関 連	ク レ ジ ット の 支 払 い	車 の 購 入	海 外 旅 行	住 宅 関 連 資 金	趣 味 や 習 い 事	金 融 商 品 へ の 投 資	そ の 他
全 体		500	76.2	37.4	28.2	22.4	20.6	19.2	17.2	16.4	14.6	5.8	5.4	5.0	4.2	2.8	10.0
妻 の 年 代	20 代	125	82.4	28.0	16.8	23.2	22.4	16.0	16.0	8.8	8.0	5.6	4.8	8.0	1.6	3.2	6.4
	30 代	125	82.4	36.8	31.2	25.6	19.2	20.8	20.8	11.2	12.8	4.8	4.8	2.4	5.6	1.6	10.4
	40 代	125	70.4	40.8	35.2	23.2	20.0	20.0	14.4	26.4	18.4	6.4	4.0	5.6	4.8	1.6	13.6
	50 代	125	69.6	44.0	29.6	17.6	20.8	20.0	17.6	19.2	19.2	6.4	8.0	4.0	4.8	4.8	9.6
子 供	いる	275	72.7	42.2	33.8	19.3	19.6	21.5	17.5	26.2	17.5	4.0	3.6	4.4	2.9	2.2	10.9
	いない	225	80.4	31.6	21.3	26.2	21.8	16.4	16.9	4.4	11.1	8.0	7.6	5.8	5.8	3.6	8.9
ロ ー ン	ある	234	70.1	41.9	52.6	21.8	17.5	18.4	16.2	20.9	19.7	5.6	4.3	3.8	3.8	3.4	10.7
	ない	266	81.6	33.5	6.8	22.9	23.3	19.9	18.0	12.4	10.2	6.0	6.4	6.0	4.5	2.3	9.4
世 帯 年 収	600万円未満	210	73.8	43.3	26.7	26.2	17.1	20.5	14.8	11.0	14.3	3.3	2.4	3.3	2.4	0.5	13.3
	600～800万円未満	116	71.6	37.1	24.1	15.5	18.1	18.1	20.7	23.3	17.2	4.3	6.0	5.2	5.2	0.9	7.8
	800～1000万円未満	83	80.7	31.3	38.6	21.7	25.3	20.5	20.5	18.1	15.7	7.2	7.2	4.8	4.8	4.8	8.4
	1000万円以上	91	83.5	29.7	27.5	23.1	27.5	16.5	15.4	18.7	11.0	12.1	9.9	8.8	6.6	8.8	6.6
受 給 額	50万円未満	197	70.6	38.6	22.8	19.8	14.2	15.7	11.2	11.7	11.2	2.0	2.0	4.1	1.5	1.5	11.7
	50～100万円未満	217	79.3	41.9	32.7	26.7	23.0	23.5	24.4	17.5	17.1	7.4	6.0	5.1	6.0	2.3	11.1
	100万円以上	86	81.4	23.3	29.1	17.4	29.1	16.3	12.8	24.4	16.3	10.5	11.6	7.0	5.8	7.0	3.5

- ・妻の年代別にみると、「預貯金」は《20代》《30代》（いずれも 82.4%）で 8 割を超える回答率となっており、若い層で将来のために備えておこうという意識が強い傾向がみられます。一方、「生活費の補填」は年齢が高いほど回答率が高く、《20代》（28.0%）と《50代》（44.0%）では 16 ポイントの開きがあります。
- ・独立していない子供（扶養中の子供）の有無別にみると、「生活費の補填」「子供の教育関連」「ローンの支払い」は《いる》人の回答率が高くなっています。一方「プチ贅沢」は《いない》人が高めとなっています。
- ・住宅ローンの有無別にみると、当然かも知れませんが、住宅ローンが《ある》人は「ローンの支払い」（52.6%）が半数を超え、《ない》人の回答率（6.8%）を 45.8 ポイント上回っているのが目立ちます。一方、住宅ローンが《ない》人は「預貯金」（81.6%）の割合が、《ある》人（70.1%）に比べて高めです。
- ・世帯年収別にみると、世帯年収が低い人ほど「生活費の補填」が多く、苦しい家計をボーナスで補っていることがうかがえます。
- ・ボーナス受給額別にみると、受給額が多い人ほど「預貯金」「子供の教育関連」などへの回答が多く、また「国内旅行（帰省を含む）」「海外旅行」「車の購入」などの消費に回すとの回答率も受給額が多い人ほど高い傾向です。一方、「生活費の補填」は、《100 万円以上》（23.3%）支給された人ではかなり少なめです。

■昨冬の調査結果との比較■

「預貯金」（69.0%→76.2%）が大きく増加する一方、「プチ贅沢」（19.4%→22.4%）、「国内旅行（帰省を含む）」（17.6%→20.6%）、「家電製品の購入」（15.4%→17.2%）などの消費項目に関しても増加しているものが多くなっています。また「生活費の補填」（42.4%→37.4%）、「ローンの支払い」（29.8%→28.2%）などはやや減っています。先にみたようにボーナスの支給額の増加により、使い道は節約から消費の方向に動いていると言えます。

図 6. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（平均値を%に換算したもの）



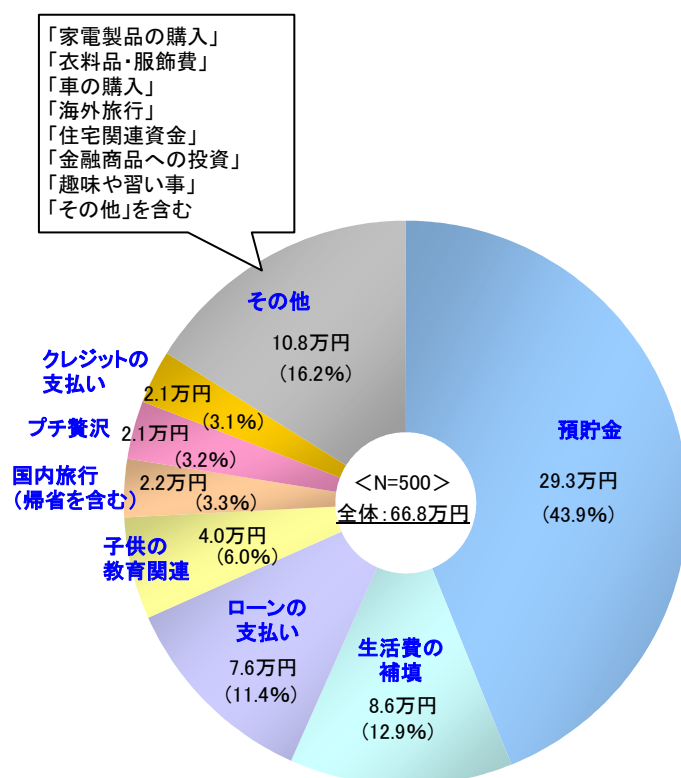
次に、冬のボーナス全額を「10割」とした場合、それぞれの使い道が何割を占めるか答えてもらいました（グラフは平均値を%に換算したもの）。

割合の平均値をみると、「預貯金」が目立って高く、4割超（43.9%）を占めています。以下、1割台で「生活費の補填」（12.9%）、「ローンの支払い」（11.4%）と続いており、この上位3項目で7割近く（68.2%）に達します。

■昨冬の調査結果との比較■

トップ3の順位は変化がありませんが、「預貯金」（40.0%→43.9%）は微増しているのに対し、「生活費の補填」（14.3%→12.9%）、「ローンの支払い」（13.3%→11.4%）は微減しています。総額における“家計のやりくり”に回す割合は減少傾向と言えます。

図 7. ボーナスの主な使い道が総額に占める割合（この冬のボーナス平均手取額 66.8 万円を総額とし、金額に換算）



参考までに、今回の冬のボーナスの平均手取額「66.8 万円」を前ページの割合で配分した場合、それぞれの使い道がいくらになるかを表してみたところ、トップの「預貯金」は 29.3 万円となりました。以下「生活費の補填」が 8.6 万円、「ローンの支払い」が 7.6 万円になります。

※例えば「国内旅行（帰省を含む）」は 2.2 万円であり、実際にはもっと費用がかかることが多いはずですが、500 名の回答を平均でなると、一家庭当たり夫のボーナスから「国内旅行（帰省を含む）」に回す金額は 2.2 万円に当たることを示しています。

■昨冬の調査結果との比較■

金額が増加した項目は、「預貯金」（24.8 万円→29.3 万円）、「国内旅行（帰省を含む）」（1.8 万円→2.2 万円）、「プチ贅沢」（1.7 万円→2.1 万円）などです。

一方金額が減少した項目は、「生活費の補填」（8.9 万円→8.6 万円）、「ローンの支払い」（8.3 万円→7.6 万円）、「子供の教育関連」（4.2 万円→4.0 万円）などです。

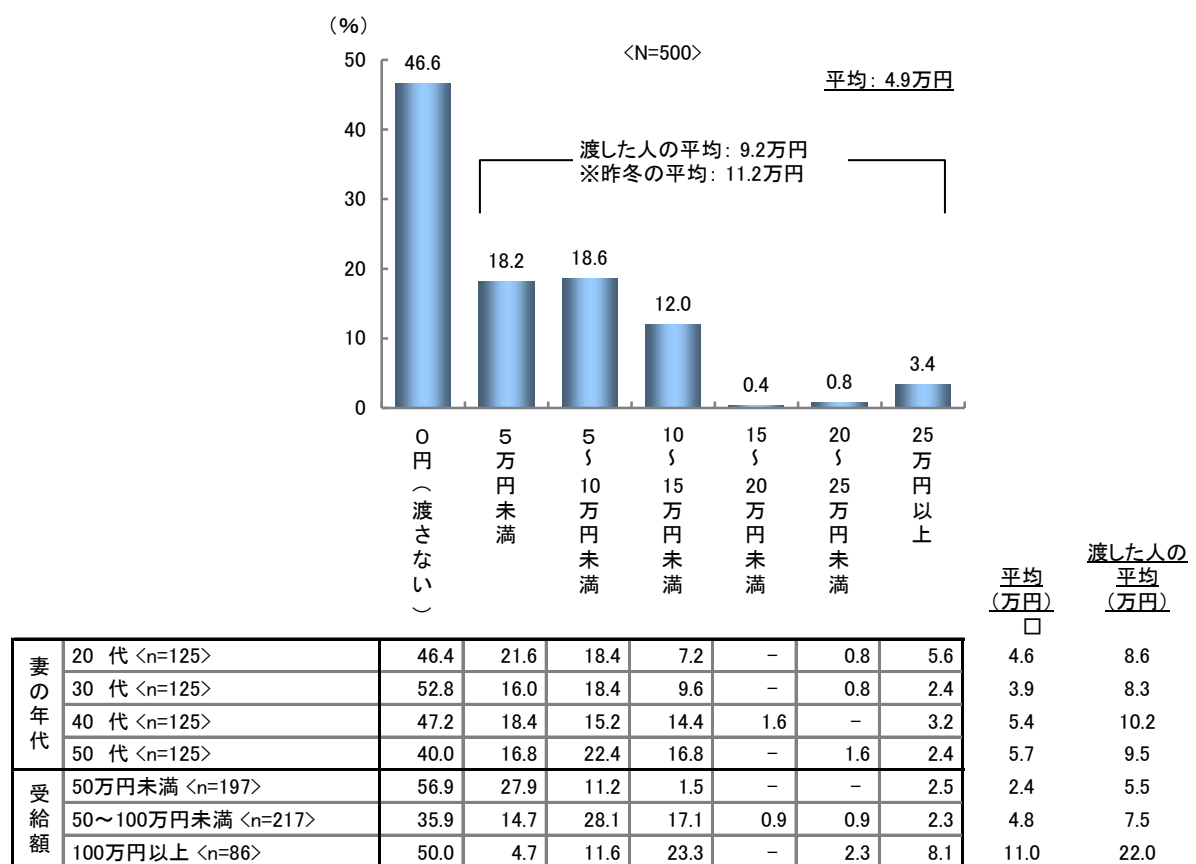
5. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額

「0円（渡さない）」は半数近く（46.6%）。

“渡した（渡そうと思っている）”人では「5～10 万円未満」（18.6%）、「5万円未満」（18.2%）、「10～15 万円未満」（12.0%）などの順で、“渡した”人の平均は「9.2 万円」。

◆「0円（渡さない）」とした人の理由は、「必要な時にはその都度渡しているの」（34.3%）、「毎月お小遣いを渡しているの」（32.6%）、「将来に備えることの方が大事なので」（19.3%）、「もらったボーナスが少ないので」（18.5%）、「ボーナスの使い道が既に決まっているの」（17.2%）などの順。

図 8. ボーナスの中から夫に渡した（渡そうと考えている）小遣いの額



今回のボーナスの中から、夫に小遣いとして渡した、あるいは渡そうと思っている金額を具体的に聞きました。

「0円（渡さない）」が半数近く（46.6%）を占めており、家計を預かる主婦の財布の紐の堅さがうかがえるとともに、夫にとっては厳しい結果となっています。

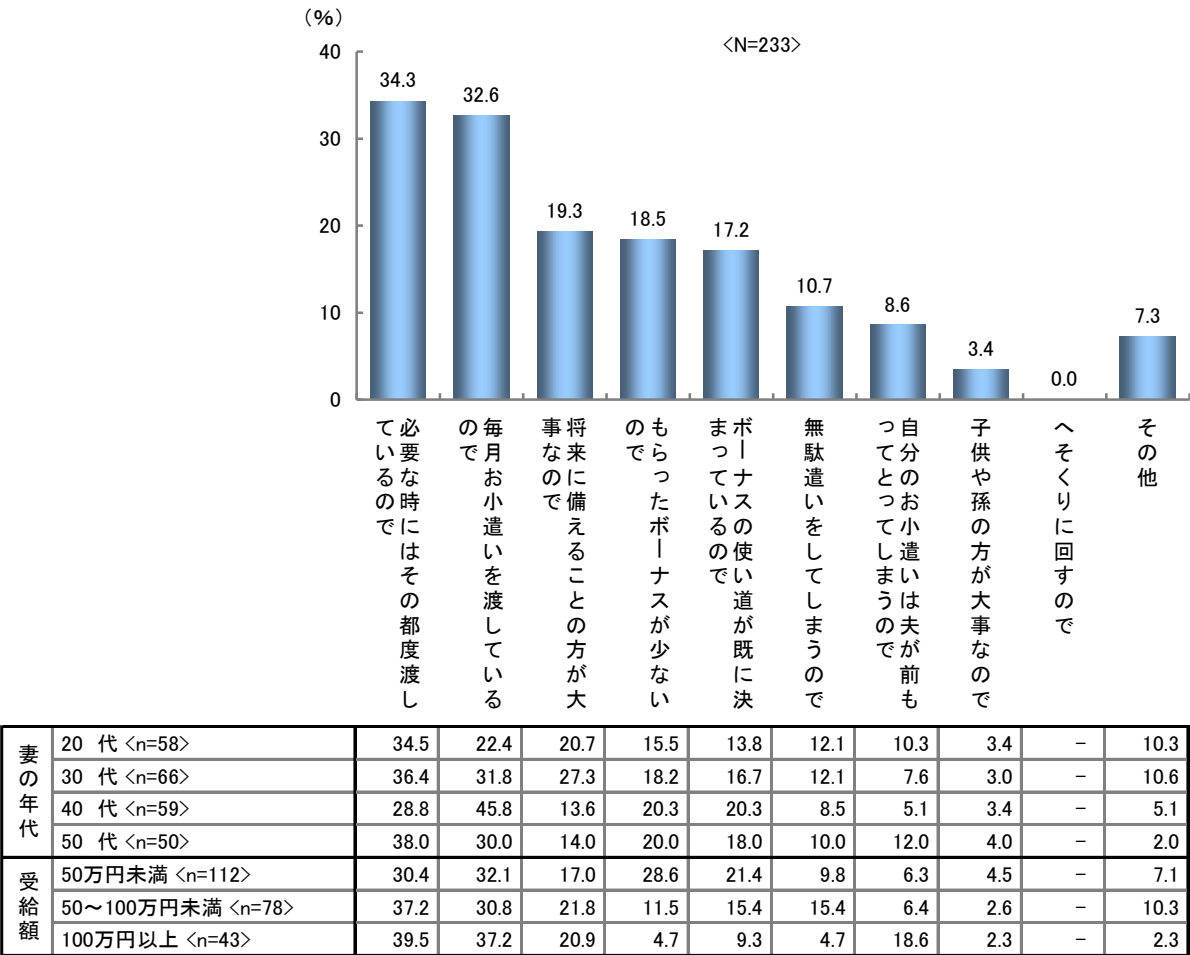
渡した人では、「5～10 万円未満」（18.6%）、「5万円未満」（18.2%）、「10～15 万円未満」（12.0%）などの順で、“渡した”人の平均は「9.2 万円」となっています。なお、「0円（渡さない）」も含めた全員の平均は「4.9 万円」です。

- ・妻の年代別に“渡した”人の平均金額をみると、《40代》（10.2 万円）が最も多く、《30代》（8.3 万円）が最も少なくなっています。
- ・ボーナス受給額別に“渡した”人の平均金額をみると、《100 万円以上》（22.0 万円）の人が最も多く、《50 万円未満》（5.5 万円）、《50～100 万円未満》（7.5 万円）との金額の開きが目立ちます。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の調査結果と比べると、「0円（渡さない）」（50.4%→46.6%）人の割合はやや減少していますが、渡した人の平均額は「11.2万円」→「9.2万円」と2万円減少しています。全体の平均も「5.6万円」→「4.9万円」と減少しています。夫側からすると、小遣いとして渡された人の割合は増えたものの、金額自体はむしろ減っているという結果です。

図 9. 「渡さない」理由（複数回答）



「0円（渡さない）」と答えた人に、その理由を聞いてみたところ、「必要な時にはその都度渡している」（34.3%）、「毎月お小遣いを渡している」（32.6%）、「将来に備えることの方が大事なので」（19.3%）、「もらったボーナスが少ない」（18.5%）、「ボーナスの使い道が既に決まっている」（17.2%）などの順となっています。

- ・妻の年代別にみると、「もらったボーナスが少ない」は年代が高いほど回答率が高い傾向が若干みられます。
- ・ボーナス受給額別にみると、額が低い人ほど「もらったボーナスが少ない」「ボーナスの使い道が既に決まっている」への回答率が高い傾向がみられます。特に「もらったボーナスが少ない」に関しては、《50万円未満》（28.6%）の人では3割近くの回答率となっています。一方「必要な時にはその都度渡している」は受給額が高い人ほど回答率が高い傾向がみられます。

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬と比べて大きな差違はみられませんが、回答率では「必要な時にはその都度渡しているので」(31.3%→34.3%)、「毎月お小遣いを渡しているので」(30.6%→32.6%)は増加しており、反対に「もらったボーナスが少ないので」(22.6%→18.5%)、「ボーナスの使い道が既に決まっているので」(20.2%→17.2%)などの項目は減少しています。

6. 臨時ボーナスをあげたいと思う人とあげたいボーナス額

芸能界では「堺雅人」(39 件)、スポーツ界では「田中将大」(117 件)、その他の分野では「ふなっしー」(13 件)などに臨時ボーナスをあげたい。

渡してあげたいボーナス金額(平均)は、「田中将大」(1,419 万円)、「林修」(1,064 万円)、「滝川クリステル」(583 万円)がトップ3。

2013 年に活躍した人やグループで臨時ボーナスをあげたいと思う人を、芸能界、スポーツ界、その他の分野に分けて自由にあげてもらいました。

表 2. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（芸能人）

芸能界			平均金額 (万円) □	最高額 (万円)
順位		件数		
1	堺雅人	39	385	5,000
2	能年玲奈	12	407	3,000
3	嵐	9	114	500
4	有吉弘行	6	235	1,000
	滝川クリステル	6	583	1,000
6	タモリ	5	82	100
7	イモトアヤコ	4	100	200
	壇蜜	4	76	100
	その他	50	427	10,000

まず、芸能界では、テレビドラマ〈半沢直樹〉の主演を演じた「堺雅人」(39 件)がトップです。第2位もNHK連続テレビ小説〈あまちゃん〉のヒロイン役を演じた「能年玲奈」(12 件)となり、高視聴率を獲得したテレビドラマの主演を演じた芸能人に人気が集まりました。以下「嵐」(9 件)、「有吉弘行」「滝川クリステル」(いずれも6 件)などが続いています。

表 3. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（スポーツ界）

スポーツ界			平均金額 (万円)	最高額 (万円)
順位		件数	□	
1	田中将大	117	1,419	30,000
2	浅田真央	22	501	5,000
3	羽生結弦	10	297	1,000
4	白井健三	4	53	100
	その他	38	703	10,000

次いで、スポーツ界では、プロ野球で日本シリーズを制した楽天のエースで、開幕から無傷の24連勝を達成した「田中将大」（117件）が断然のトップとなっています。第2位には女子フィギュアスケートの「浅田真央」（22件）が続いており、以下、男子フィギュアスケートの「羽生結弦」（10件）、体操の「白井健三」（4件）となっています。

平均金額も、「田中将大」（1,419万円）が最も高く、「浅田真央」（501万円）に大きく差をつけています。

表 4. 臨時ボーナスをあげたいと思う人（その他）

その他			平均金額 (万円)	最高額 (万円)
順位		件数	□	
1	ふなっしー	13	89	500
2	安倍晋三	7	323	1,000
3	林修	5	1,064	5,000
	その他	25	4,571	90,000

その他の分野では、“ゆるキャラ”ブームで話題となった「ふなっしー」（13件）がトップで、以下、総理大臣の「安倍晋三」（7件）、“いつやるか。今でしょ！”のフレーズでブレイクした塾講師「林修」（5件）が続いています。2013年の流行語大賞を獲得した4名（堺雅人、能年玲奈、滝川クリステル、林修）がいずれも入っているのが印象的です。

金額は、「林修」（1,064万円）が上位3人の中では最も高額となっています。

表 5. <参考：総合得票・ボーナス金額（平均）トップ10>

順位		得票数
1	田中将大	117
2	堺雅人	39
3	浅田真央	22
4	ふなっしー	13
5	能年玲奈	12
6	羽生結弦	10
7	嵐	9
8	安倍晋三	7
9	有吉弘行	6
	滝川クリステル	6

順位		平均金額 (万円)
1	田中将大	1,419
2	林修	1,064
3	滝川クリステル	583
4	浅田真央	501
5	能年玲奈	407
6	堺雅人	385
7	安倍晋三	323
8	羽生結弦	297
9	有吉弘行	235
10	嵐	114

■昨冬の調査結果との比較■

昨冬の第1位と比べると、

【芸能界】 「スギちゃん」(61件) → 「堺雅人」(39件)

【スポーツ界】 「吉田沙保里」(60件) → 「田中将大」(117件)

【その他】 「山中伸弥(ノーベル賞受賞)」(31件) → 「ふなっしー」(13件)

と、いずれも入れ替わっています。